

兵庫県豊岡市出石町における観光まちづくりの変遷に関する研究

A Study on the Process of Town Development with Tourism in Izushi Toyooka City, Hyougo Pref

○吉野祐太², 川島和彦¹

*Yuta Yoshino², Kazuhiko Kawashima¹

The purpose of this study is to clarify the measures of the formation of urban space using the tourism promotion. In this study we analyze the process of town development with tourism in Izushi Toyooka City, Hyougo Pref. At first, we grasp the improvement of public spaces by local government and tourism promotion strategies by private organizations. Then we analyze the relationship between the improvement of public spaces by local government and the tourism promotion strategies by private organizations.

1. 研究背景および目的

近年、観光を利用し地域づくりを進めていく観光まちづくりに対する機運が各地で高まっている。観光には、まちなみや地場産業等を活かしていくといった地域文化の保全や、地元企業・住民組織等の多様な主体によるさまざまな地域活動の展開を促すなど、多面的な効果が期待できることから^[1]、観光振興を通じて良好な都市空間の形成を進めていくことが可能であると考えられる。

その方策のひとつとして、民間組織の観光振興策と関連させて行政による公共空間整備を進めていくことや、逆に行政による公共空間整備をきっかけに新たな観光振興への取組みを展開させていくといった相乗効果を計画的に誘導することで観光まちづくりを効果的に進めていくことができると考えられる。

そこで本稿では、民間組織による観光振興策と行政による公共空間整備が相互に関係しながら良好な観光まちづくりが進んできた兵庫県豊岡市出石町(以下、出石町)をケーススタディとして、観光振興と行政による公共空間整備の相互関係について分析することを目的とする。

2. 公共空間整備および観光振興策の変遷

(1) 行政による公共空間整備

行政資料の整理^{※1}および行政に対するヒアリング調査^{※2}をもとに、これまで実施されてきた公共空間整備事業

Table 1 The improvement of Public Spaces by Local Government

年	事業および計画の名称	主な整備内容
1986(昭和61)年	内町都市核形成計画 策定	地域の中心地である内町地区の公有地における拠点的・重点的な整備。小学校の移転、小学校跡地への新町役場の建設、町民広場および観光広場の整備、美術館の建設、道路の石畳舗装、登城門の復元など数々の事業が実施された。
1987(昭和62)年	旧城下町再生計画 策定	城下町であったエリアである城下町地区の民有地を中心とする整備計画であり、町並みの保全・活用方策や商店街の整備方策が提案された。行政の公共空間整備としては、まちの回遊性向上に向けた内堀通りの新設および城下町回遊路の設定・整備、観光用駐車場の整備、総合案内板の設置、道路の舗装整備、観光連絡路の整備などが実施された。
1988(昭和63)年	内堀通り整備事業 実施	旧城下町再生計画の一環として、回遊性向上のために内町地区に通りを新設した
1989(平成1)年	町立伊藤美術館 整備	内町都市核形成計画の一環として実施された、洋画家の伊藤清永から作品を展示するための美術館の建設
1990(平成3)年	家老屋敷 改装整備	内町都市核形成計画の一環として実施された。出石城の内堀の中にあつた高級武士(家老級)の居宅として使われていた屋敷を改装し、無形文化財の大名行列諸道具の展示場として活用。
1990(平成3)年	魅力ある街づくり事業 実施	街路名称を書いた石柱を設置
1993(平成5)年	街なみ環境整備事業 開始	城下町地区を対象に、電線の地中化(内町地区で実施)、親水公園の整備、道路の美装化、水路の整備などを実施
1993(平成5)年	出石町歴史的地区環境整備街路事業調査	歴史的町並みの保全を重要視した都市計画道路の見直しを実施し、観光客の散策路について検討・提案が行なわれた。また、観光駐車場の整備なども実施された。
1994(平成6)年	歴史街道整備プラン 策定	城下町地区に集中する観光客を周辺の小野地区へ回遊させるための道路整備
1994(平成6)年	登城門・登城橋 整備	市街地と出石城を結ぶため谷山川に登城橋が架けられ、橋を渡った先に登城門を整備した。
2002(平成14)年	観光用トイレ整備	内町地区に観光用のトイレを整備
2003(平成15)年	出石城下橋 整備	連絡橋の整備

について整理したものが Table 1 である。1986(昭和61)年に、内町都市核形成計画(以下、都市核計画)が策定されたことをひとつの契機として、公共空間整備が積極的に進められ、それにともない、新たな通りの整備など都市空間も変容してきたといえる。特に役所等の機能が集積した地域の中心部である内町地区においては重点的に整備が展開されてきた。この内町地区の拠点的な整備を中心としながらも、城下町地区^{※3}へと整備エリアが拡大されていき、公共空間整備が進められてきている。

(2) 民間組織による観光振興策

観光振興策は主に「但馬国出石観光協会(以下、観光協会)」、第三セクター「(株)出石まちづくり公社(以下、まち公社)」, 出石町の名物である皿そばを扱う店舗(以下、皿そば店)の店主等により組織された「出石皿そば協同組合」などの民間組織により展開されてきた。これらの各主体に対するヒアリング調査^{※2}にもとづき、現在までに実施されてきた観光振興策について、各主体別にまとめたものが Table 2 である。1973(昭和48)年から観光協会が積極的に観光振興に取組み始めたことをきっかけに、皿そばの振興やさまざまな収益事業などが展開されてきた。

3. 観光振興と行政による公共空間整備の相互関係

観光協会が改組し、積極的な観光振興策を展開し始めた1973(昭和48)年から現在までの観光まちづくりの変遷を3期に大別し^{※4}、観光振興策と公共空間整備が相互

1 : 日大理工・教員・建築 Associate Professor, Department of architecture college of Science and Technology Nihon University
 2 : 日大理工・院(前)・建築 Graduate Student, Architecture major, Graduate School of Science and Technology Nihon University

Table 2 Tourism Promotion Strategies by Private Organizations

出石但馬国観光協会		
事業開始年	収益事業	備考
1973(昭和48)年	茶屋石城閣	観光協会直営の皿そば店。2006年に廃業した。
不明	喫茶てっせん	内町地区にある喫茶店
1977(昭和52)年	観光ガイド	—
1977(昭和52)年	特産品の販売	内町地区の観光センターで販売
不明	レンタサイクル	—
取組みの開始年	その他観光振興策	備考
1977(昭和52)年	国鉄周遊指定地	出石町には鉄道は通っていないが、観光協会等が当時の鉄道管理局に依頼し城崎とセットで、周遊指定地となった
1973(昭和48)年	皿そばの全国PR	出石町の名産「皿そば」の振興のため、全国のデパート等でPR活動を行なった
—	各種イベントの開催	—
(株)出石まちづくり公社		
事業開始年	収益事業	備考
1998(平成10)年	観光協会の収益事業の引き継ぎ	—
不明	ハーブショップ香りの城	ソフトクリーム等の販売
2000(平成12)年	出石びつ蔵	集合貸店舗事業であり、そば屋、土産物屋以外の地域に不足している店舗を対象に、7店舗に対して、テナント賃貸をおこなっている。
2004(平成16)年	大手前駐車場の運営	もともと町営だった駐車場をまちづくり公社が管理・運営
2008(平成19)年	いずしラベルサービス	出石町への直行バス等を出すことで観光客誘致等を実施
2008(平成20)年	永楽館	明治期の芝居小屋「永楽館」の指定管理者となり、管理運営している
2009(平成21)年	出石皿そば巡り	一枚で皿そば店一軒で食事ができる疑似通貨を3枚セットで販売
2010(平成22)年	旅館西田屋	空き家となった町家を改修し、旅館として活用
取組みの開始年	その他観光振興策	備考
—	各種イベントの開催	—
出石皿そば協同組合		
取組みの開始年	その他観光振興策	備考
1996(平成8)年	出石皿そば祭り新そば発表会	そば打ち職人が並び、その場でそばを打ち、食べてもらうなどの皿そばの振興イベント
2009(平成21)年	皿そばスタンブラー	—

に関係しながら展開してきた実態を分析する。

(1) 第Ⅰ期(1973(昭和48)年~1987(昭和62)年)

1973(昭和48)年に約13万人であった観光客数は、観光協会の取組みや「ディスカバー・ジャパン」^{※5)}において出石町が取り上げられたことなどを背景に、1986(昭和61)年には約78万人にまで増加した。しかし、その一方で、観光客の集中する内町地区は、観光客の受入れ体制が整っておらず、観光バスの乗り入れによる交通混乱などが問題となっていた。そこで、町有施設が多く、町主体の整備が可能であった^{※6)}内町地区の拠点的な公共空間整備計画として「都市核計画」が策定された。主要な整備としては、具体的に次のことが実施された。当時、内町地区の中心部に建てられていた小学校を移転させ、その跡地に、行政・市民生活・観光の核として町役場を再整備し、その前方に祭りやイベントの開催等を支える空間として町民広場と観光広場を整備した。この都市核計画に続き、1987(昭和61)年には、立ち寄り型観光地から脱却するために、観光客を限定したエリアから城下町へと回遊させることなどを目的に城下町地区の整備計画「旧城下町再生計画」が策定された(Table 1)。以降、このふたつの計画をもとに、国の各種補助事業等を活用しながら、段階的な公共空間整備が進められた。

つまり、行政が主導で進めることができる公有地を有効利用し、一層の民間組織の観光活動などを促すための観光振興と関連させた公共空間整備が計画的に実施されてきたといえる。

(2) 第Ⅱ期(1987(昭和62)年~1996(平成8)年)

1986(昭和61)年以降、行政による公共空間整備が積極的に実施されていき、特に内町地区およびその周辺地域においては、観光地としての整備が進んだ(Table 1)。これにともない、道路の美化化および電線類の地中化等が実施された通りの沿道を中心に皿そば店が集積していき、当初2軒のみであった軒数は、1996(平成8)年には43軒にまで増加した^{※7)}。また、皿そば店の増加をきっかけに、店主等により発足された「出石皿そば組合」および「出石麦蕎会」^{※8)}や観光協会・商工会等により、都市核計画において整備された広場において、イベントや地域の祭りなどが開催されるようにもなった。

つまり、行政による公共空間整備により観光地としての整備が進み、それを利用した地域の産業振興や民間組織による新たな観光振興策が展開されたといえる。

(3) 第Ⅲ期(1996(平成8)年~2012(平成24)年)

Ⅱ期において公共空間整備や皿そば店の増加により、観光地としての魅力が高まったことなどを背景に、1996(平成8)年には、約100万人の観光客が訪れるようになった。この観光客数の増加により、観光協会の事業収益が大幅に増えたことをきっかけに、これまで観光協会が行なってきた収益事業を分離独立させる形で1998(平成10)年に「まち公社」が設立された。まち公社は観光協会から引き継いだ事業に加え、集合貸店舗運営など、さらなる観光振興策を展開させてきている(Table 2)。

つまり、Ⅰ期・Ⅱ期において、公共空間整備による観光地としての整備が進んだことや、それにとまなう地域の産業振興などがさらなる交流人口の増加につながり、そのことが、新たな観光振興策を展開させたといえる。

4. まとめ

出石町では、行政が、民間組織の観光活動などもふまえて、観光振興と関連させた公共空間整備を計画的に実施してきたことで、民間組織によるさらなる観光活動や地域の産業振興が進み、さらに、それらを背景とした交流人口の増加が新たな公共空間整備や観光振興策の展開につながった。このような相乗効果を生み出したことが良好な観光まちづくりが進められてきた一因であるといえる。

【注釈および参考文献】
 ※1 豊岡市役所出石総合支社が視察に訪れた個人・団体に対して配布するまちづくり視察資料各種
 ※2 ヒアリング調査期間: 2012年9月3日~6日、9月10日~13日
 ヒアリング調査対象: 豊岡市役所出石総合支社地域振興課、NPO 法人但馬国出石観光協会、皿そば協同組合 代表取締役、(株)出石まちづくり公社 店長
 ※3 材木・魚屋・本町・青田・内町・八木・田結王の7地区が城下町地区である
 ※4 観光まちづくり関係者に対するヒアリング調査および文献調査により、観光まちづくりの変遷を整理したうえで、この3期に大別することが、観光振興策と公共空間整備の相互関係を分析するうえで適切であると判断した
 ※5 日本国鉄道が個人旅行者の増加を目的に実施していたキャンペーンであり、雑誌等を通じて全国に出石町がPRされた
 ※6 当時市町村合併までであり、出石町であった
 ※7 その後、最も店舗数が増加した1998(昭和10)年、1999(昭和11)年および2003(昭和15)年には49軒にまで店舗数が増加している
 ※8 「出石皿そば組合」および「出石麦蕎会」が2008年に一元化され、新たに発足した組織が「皿そば協同組合」である
 【1】森重昌之「観光まちづくりにおける地域外関係者の受け入れのしくみとその特徴」北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集、pp.105-116、2010年
 【2】西村幸夫(編)「観光まちづくり-まち自慢からはじまる地域マネジメント-」、2009年、学芸出版社